

疑問点の解明求め3月市議会へ4つの請願提出

新庁舎/旧図書館跡/市民病院/常任委員会の運営改善

明石市が進めている新庁舎建設事業や市民病院の再整備計画、旧図書館跡の利活用計画などの審議が不十分なことから、重要な疑問点があるままにされたまま工事や計画が進められていることについて、4つの市民団体が3月市議会に「疑問点の解明と慎重審議を求める」請願書4件を一斉に提出しました。4件の中には取り上げた個別施策だけではなく、常任委員会の審議のあり方が議会基本条例に定められている議会運営の原則が守られていないことも取り上げて、委員会の審議と運営の改善を求める請願も含まれています。

請願書を提出したのは市民自治あかしのほか、議会基本条例を学ぶ市民連絡会、新ごみ処理施設を考える会、旧図書館跡への対応に疑問を呈する会の4団体。新ごみ処理施設計画についても同様の請願を提出する手続きを進めていたが、2月17日になって市が「概算見積で810億円」としていた整備事業費を「入札見積額664億円」に切り下げる予算案を発表したため、請願書的前提条件が変わったことへの対応が間に合わなくなったことから同19日の提出を見合わせました。

(裏面に「一斉請願」の詳細を記載)

3月議会の一般質問と

4つの請願書の審議日程

- ◆一般質問 3月2日～4日(3日間)
- ◆3月6日 総務常任委員会 10時
新庁舎計画、旧図書館跡計画請願
- ◆3月9日文教厚生常任委員会 10時
市民病院再整備計画の請願
- ◆3月12日 議会運営委員会 11時
常任委員会の審議運営改善の請願

新ごみ処理施設 810億から664億円へ146億切り下げ

1年前の概算見積額は何だったのか？ 大規模事業への対応に甘さはないか？

新年度着工をめざし事業者選定の大詰めを迎えている新ごみ処理施設計画で、明石市は2月17日優先交渉権者を川崎重工神戸工場を代表とする企業グループに決定したことを市のHPで公表しました。昨年3月の新年度予算案では概算見積額を810億円としていましたが、川重が提出した見積額では664億円と18%、146億円も少なくなっていました。もう一つの入札事業者の日鉄エンジニアリンググループは、さらに約16億円低い648億円でしたが、次点でした。

昨年3月時点で市は810億円を「上限価格」としていたが、基本計画段階(2023年3月)で674億円(施設整備費418億、20年間の運営費256億)としていたのを、昨年の概算見積では一挙に810億円に引き上げていました。結果的に施設費

では8.4%41億円下がり452億円、運営費では33%104億円下がり212億円になっています。基本計画の策定業務委託以来、基本設計や事業者公募、選定作業に業務を同じコンサルに一貫して委託していますが、計画の詰めの甘さが露呈した格好です。

焼却炉などの施設構成や規模は基本計画とほぼ変わらず、焼却施設規模は138トンの2炉で計276トン/日、破碎・資源リサイクル施設は計55トン/5h。市民から強く提案してきた生ごみ等のバイオマス系の資源循環施設は採用されていません。循環型社会形成に向けた一般廃棄物処理システム構築に立ち遅れた旧態依然の焼却優先の新施設が、過大な焼却処理量の見通し等による大きな矛盾が早晚、市を揺るがす問題になるのは必至です。

大型重要施策に対する市議会のチェック機能を問う「一斉請願」

重要案件に少ない質疑、疑問点の解明スルー、中身より推進優先

明石市の3月議会に4つの請願を一斉に提出する行動は、明石市政はじまって以来の巨額事業になる新ごみ処理施設の工事契約が事実上3月議会で決まることや、新庁舎の起工式が行われ本体工事が着工されているにもかかわらず、未だに新庁舎建設事業費の総額が明らかにならないまま議会のチェック機能も働いていないことへの危機感が生じたことからです。

同じ危機感は、数百億円は必要になるとみられる市民病院を「移転建て替え」という基本方針が、財政的な検討もないまま進んでいることにも見られます。また、移転後放置されていた明石公園内の市立図書館を「解体ありき」の事業が進められていることにも危機感が募っています。

新庁舎建設計画の未発注工事等と総事業費の解明

新庁舎の建設工事は昨年3月議会で187億円の工事契約を可決して7月には立体駐車場の解体に着工し、今年1月末には起工式を行い本体工事が始まっています。

3年前の基本設計確定時で139億円とされていた総事業費は大きく膨れ上がっているが、187億円には鴻池組と契約する時点で第3工区（来庁者駐車場、公用車立体駐車場や外構整備）整備費や什器備品、DX関係の電話や情報機器整備費、移転費用、工事監理費も除外されて、その総額がどの程度になるのかも明らかにされていません。2024年の実施設計に記載されている費用等から推定すると数十億円規模になると見られているが、この時点になっても「総事業費」が幾らになるのかが分からないまま工事が進んでいるという異常な状態です。

また、新庁舎は維持管理費が高くつく「免震構造」になっており、毎年の点検や年次ごとの調査、設備の取り替え等の維持管理費が相当の額に上ると言われています。これらを含めた完成後に必要な維持管理費用も明らかにしていません。

加えて市は昨年9月、明石港東外港地区の再開発について県知事と協定書を締結し、主として新庁舎の駐車場施設を予定している市有地1万1000㎡を再開発区域に含めるとしています。その結果、新庁舎計画で市議会や市民に明らかにしている第3工区の整備がどうなるのか？ということも明確になっていません。

請願では、総事業費とともにこうした疑問点を解明するように求めています。

旧図書館跡利活用計画の疑問点解明と慎重審議

県立図書館と一体的に建てられた文化施設として明石公園のシンボリックな建築物として定着してきた旧図書館を次世代に受け継ぐ選択肢を含めた多様な活用策を検討することなく、なぜ「解体ありき」が進められたのか？ 代替案を検討することなく解体前提の事業を進めてきたのではないのかという疑問が解明されていません。

市民からは新しい施設に対してもさまざまな意見が出ています。多様な意見の中から、なぜ現在の中途半端な施設計画になったのかも疑問だらけです。不可解な補助金への対応も疑問です。

議会基本条例に基づく常任委員会の審議と運営改善を求める請願

◆請願項目

- ①委員会の審議は質疑・討論・採決を明確にし、実質的な審議を行えるように改善してください。議員相互における自由な討議を重んじて、合意形成に努める審議を行ってください
- ②重要な案件は政策形成過程に関する諸項目を明確にし、市民への説明責任を果たしてください。また、報告事項は「報告を聴いた」ことが「即了承」したことにならないような取り扱い方を検討してください。
- ③請願や陳情を「市民による政策提案」と位置付けるなら、審議の機会を市民との貴重な意見交換や意見聴取の場と位置づけて積極的に意見交換できるように改善してください。

◆請願者

議会基本条例を学ぶ市民連絡会
政策提言市民団体 市民自治あかし
新ごみ処理施設を考える会
旧図書館跡への対応に疑問を呈する会

財政的検討なしに「移転建て替え」基本方針の怪

数百億円を必要とする市民病院の再整備計画が財政的な検討もないままに「がんセンター跡地に移転建て替え」という基本方針に決定されたのはなぜか？ 公立病院の老朽化対策はどこの自治体でも市政を揺るがせる大事業として特別委員会を設けて財政面の検討や多様な選択肢について議論されています。

明石市では議会での議論がほとんどないままに、市も財政的検討なしに「移転建て替え」の基本方針を決めてしまった。これで将来への安心が担保できるのかどうか、疑問点がたくさん残されたままです。

